## 目 次

第	11	章 育	背景と本資料の位置づけ ···········1
第	2 :	章 均	是防構造の工夫にあたっての基本的考え方・技術的事項の整理3
	2. 1	検	討対象とした構造・諸元3
	2. 2	2 構	造上の工夫に関する技術的事項の整理
	2. 3	3 水	理実験による検討範囲
第	3 :	草	<b>実験概要······</b> 11
	3. 1	天:	端保護工
	3. 2	<u>2</u> の	り尻補強工
	3. 3	3 斜	め小口止め
第	<b>4</b> i	章 梅	構造工夫の検討にあたっての留意事項 ······ 19
	4. 1	天:	端保護工
	4. 2	2 の	り尻補強工 29
	4	1. 2. 1	平場なし
	4	1. 2. 2	平場あり39
	4. 3	3 の	り覆工(ブロック)と堤体のり面の接合部が侵食弱点箇所となり得ることへの対
		第	5【斜め小口止めの効果】41
	参	考文南	<b>状</b> ·······42
参	考	資料·	43
	図	- 写首	<u> </u>